

未来をひらく 思いをつたえる

Hirakū

36



★ヨーロッパ視察レポート ★My Stepping Stone〈File8〉

★登美ヶ丘卒園生兄弟インタビュー ★えほん研修レポート

★Grad Club オーストラリア研修 ★5年ぶりに復活! ファミリーイベント

★神戸シーサイドクラブ WINTER DAY CAMP 開催

★Grad Club 韓国英語村研修のお知らせ



カリキュラムラボ ヨーロッパ視察レポート

アウトドア教育と多文化教育の最前線を探る



【視察レポート】

アドベンチャースクール
カリキュラム責任者
ライアン ロペス

【訪問施設】



Attarpskolan
(アタルプスクラン校)

◆訪問の背景と目的：アタルプスクラン校を視察先に選んだ理由

今回の訪問の目的は、アドベンチャースクールの教育にアウトドア学習の要素をさらに取り入れるために、スカンジナビア諸国のアウトドア教育の取り組みを学ぶことでした。特に、自然環境での遊びが子どもたちの自主性、協力心、そして好奇心を育む効果に注目し、実際の教育現場を通してその実践例を観察したいと考えました。また、学業面だけでなく、社会性や情緒面での成長支援を確認する目的で、スウェーデンのアタルプスクラン校を視察先に選びました。同校が実施している「Skolskogen」プログラム・スウェーデン語で「学校の森」は、フォレストスクールのモデルとして広く知られており、日常的に自然環境を活用した活動を通じて、子どもたちの遊びを深めています。このプログラムでは、自然環境を遊びのツールとして活用するだけでなく、保護者を教育プロセスに積極的に巻き込むことにも力を入れています。こうした点が、アドベンチャースクールの理念に合致しており、私たちが探求する教育モデルに非常に参考になると考えました。

◆訪問中に印象的だった瞬間や生徒の反応

最も印象的だったのは、子どもたちが自由な遊びと構造化された遊びの間をスムーズに行き来していたことです。Skolskogenプログラムでは、子どもたちに多くの自主性が与えられており、その自信と自立心には驚かされました。あるグループが、枝を使ってシェルターを作るプロジェ

クトに取り組んでいたのですが、彼らのチームワークや問題解決力、コミュニケーション能力は年齢を超えたレベルで素晴らしいです。また、スタッフとの話し合いから「信頼」の大切さを学びました。子どもたちが自分たちで遊びを進められること、そして自然環境が遊びに必要なリソースを提供してくれることを信頼している点が印象的でした。アドベンチャースクールでも同じ理念を大切にしていますが、アタルプスクラン校ではそのレベルが一段と高いと感じました。

◆Skolskogenとアドベンチャースクールのアプローチの違い

Skolskogenプログラムとアドベンチャースクールは、どちらもアウトドア学習を重視していますが、そのアプローチには違いがあります。

Skolskogenはフォレストスクールの理念に深く根ざしており、天候に関係なく、ほぼすべての遊びを屋外で行っています。「自然が最高の教室である」という信念があり、私たちのアドベンチャースクールが屋内外のバランスをとりながら遊びを提供するアプローチとは異



【環境の探索】インストラクターが森や湖、広場を案内し、子どもたちの力とバランスを養うためにスラックラインを取り入れています。エリアの確認は安全と計画に不可欠です。

なります。一方、共通点もあります。どちらも自主性、レジリエンス、協力を育むことに力を入れています。しかし、Skolskogenは自由遊びと自己主導型学習に強く焦点を当てているのに対し、アドベンチャースクールではより構造化された探究型プロジェクトを通じた学びが進められています。

◆Skolskogenで得た知見をアドベンチャースクールに活用

アドベンチャースクールでは、屋外でのグループチャレンジを活用した社会的・情緒的学習（SEL）ワークショップを導入し、生徒たちがチームワークや共感、感情のコントロールを実践し、コミュニティ意識を育むことを目指します。自然の中での活動を通して、社会的・情緒的な対応力や生活に役立つスキルを身につけられるよう支援します。また、クライミングやバランス活動、自然素材を用いたプロジェクトを取り入れた新しい運動プログラムも導入し、身体的成长に加えて、勇気や自信、責任感を養います。安全でサポートのある環境で限界に挑戦することで、全人的な成長を促進します。さらに、生徒が学びに主体的に取り組む長期的なアウトドアプロジェクトを導入し、協力や問題解決能力を育む機会を増やします。保護者の皆様の参加も促し、家庭での学びを支える連携も図っていきたいと考えています。

◆自然が教室に：シンプルな資源で深まる学び

Skolskogenプログラムのシンプルなアプローチがこれほど効果的大とは思いませんでした。もっと多くの道具や教材、そして構造化された活動があると思っていましたが、学校は自然やシンプルな資源（枝や石など）に頼り、それだけで十分に学びが深まっていました。また、子どもたちが非常に自立していることにも驚きました。挑戦的な状況でも自分たちで問題解決をし、探索を進める姿は、構造が少ない方が成長につながるということを改めて実感させられるものでした。

◆アドベンチャースクールの新たな挑戦と意義

今回のアタルプスコラン校の視察を通じて、アウトドア学習が子どもたちの成長に与える大きな影響を再確認しました。アドベンチャースクールでは、教室を越えて自然の中でリスクに挑戦し、実践的な経験を通じて成長できる環境を提供し、「協力」や「困難に負けない力」「批判的思考」といった生きるために必要なスキルを養っています。Skolskogenのプログラムから多くを学び、子どもたちが学業だけでなく人生においても成功するための準備を進めています。この包括的なアプローチの価値を保護者の皆さんにもご理解いただき、「知識だけでなく人間性も育む教育」というアドベンチャースクールの目指す姿に共感いただければ幸いです。



グループで行うリテラシー授業。木製ボードを使って単語を繕り、触覚を通じて安心感を育み、学習を深めます。



スウェーデン製のMoraknivナイフを使用したナイフ彫りの学習。安全講習の後、ビーラーから始めて徐々に技術を磨きます。



【計測活動】印付きロープを使い、計測の概念を簡単に理解し、数値化の理解を深めます。



【読み解きと語彙の一致】手がかりカードを語彙と一致させることで、協力しながら語彙力と問題解決力を高めます。

[視察レポート]
インフィニティ初等部
校長
イアン マッケンジー

◆訪問の背景と目的

インフィニティ初等部では、常により良い教育方法を模索し、成長を続けています。今年度から国際初等教育カリキュラム（IPC）を導入し、IPC のグローバルネットワーク*に参加することで、学校全体のさらなる成長を目指しています。

今回の訪問の目的は、IPCを効果的に適用しているヨーロッパの代表的な学校から学び、インフィニティでも最高の教育環境を作り出すためのヒントを得ることでした。



【訪問施設】



International School Leiden
(ライデン国際学校)

【IPCのグローバルネットワーク*とは】

IPCを導入している世界90か国以上の1,000校以上の学校が参加する国際的な教育ネットワーク。参加する学校は、共通のカリキュラム基準や教育目標に基づき、IPCを通じて生徒の成長と発展を支援するために連携。また、ネットワーク内の学校は、お互いの経験や教育実践を共有し、IPCの効果的な実施方法や改善点についてアドバイスを受けられる場を提供している。

◆訪問した各学校で印象に残った点

各学校でのカリキュラム提供方法には違いがあるものの、共通して強調されていたのは、**国際的な視野、多様性の尊重、そして個々の価値の認識**でした。ライデン国際学校（ISL）では、新学期の開会式に参加しました。コミュニティ全体が集まるこのイベントは非常にインフォーマルで、保護者、生徒、教師が一体となり、校長が「**私たちは共に学ぶコミュニティであり、互いに支え合いながら成長していく**」と強調していたのが印象的でした。

また、ヨーロッパの学校では、子どもたちの授業時間が短く、自由時間や柔軟な学びが非常に大切にされていました。試験のプレッシャーがなく、子どもたちは自分の成長のペースに合わせて進むことができていました。この姿勢はインフィニティでも取り入れ、子どもたちが自己成長を楽しめる環境を提供していくと考えています。



North Zealand International School
(ノース・ジーランド・インターナショナル・スクール)



Attarpskolan
(アタルプスコラン校)



Futuraskolan International School
(フューチャスコラン・インターナショナル・スクール)



【ライデン国際学校 (ISL)】

2022年設立、国籍30カ国以上の生徒が在籍。英語イマージョン教育を実施し、オランダ語は週1回。カリキュラムには、IEYC、IPC、英国ナショナルカリキュラムに基づくプログラムなどを使用。

◆訪問中の驚き、予想外の発見

ストックホルムのフトラスコラン・インターナショナル・スクールでは、子どもたちの自立心と成熟度の高さに驚かされました。生徒たちは高い集中力を持ち、教師の監督がほとんどなくとも、自ら学びを進めていました。特に4年生の生徒たちがデジタルドキュメントを共有し、協力してプレゼンテーションを作成していた姿は、非常に印象深かったです。彼らはIPCを通じて自立した学びのスキルをしっかりと身につけていると感じました。



子どもたちが自由に自分の考えを表現し、創造性や自主性を引き出す探究学習の様子

◆この観察で得た知見をインフィニティに活用

デンマークのノース・ジーランド国際学校では、IPCのリーダーであるPete Tunna氏による特別なプログラムを受け、IPCをどのように学校全体で効果的に実施するか、素晴らしいアドバイスをもらいました。特に印象的だったのは、探究型学習のアプローチで、子どもたちが自由にトピックを深掘りできる環境です。例えば、2年生では「チョコレート」をテーマに、種類やブランド、栄養情報、製造過程、さらにはグローバリゼーションや貿易の視点も取り入れ、調べることができていました。このアプローチはインフィニティの教育方針とも一致しており、今後さらにIPCを取り入れた学習体験を提供していく予定です。



子どもたちが協力し合い、質の高い議論と学びを深める授業

◆観察で見られた社会的・情緒的学習(SEL)や多文化教育のアプローチ
SEL(社会的・情緒的学習)のアプローチは、インフィニティで実践しているものと非常に似ていました。子どもたちは感情を表現するための適切な言葉を学び、「ゾーン・オブ・レギュレーション」というシステムを使って感情を分類していました。「グリーンゾーン」にいるときは学習に最適な状態ですが、「レッドゾーン」ではフラストレーションや怒りを感じた際に一度クールダウンし、状況を見直すことが重要です。これにより、子どもたちは感情の自己管理を学び、将来の状況にうまく対処できるようになります。



自分の感情が、今どの状態にあるかを認識することで、適切な対処法を学び、気持ちの切り替え方法を実践する「ゾーン・オブ・レギュレーション」
(写真上)と感情を落ち着かせるための
「グラウンドинг・テクニック／心の安定化法」
(写真下)

◆この観察が保護者や生徒にもたらす価値

IPCネットワークの一員として、インフィニティでは今後、さらに多くの国際交流の機会が期待されます。教育知識を共有するための強力なシステムがあり、教職員が専門性を高めることで、教室での学びにも大きな影響を与えています。これにより、子どもたちはますます自信を持ち、自立した学びを進め、国際的に活躍できるようになるでしょう。そして私たちはすでに新しいつながりを活用しています!現在、インフィニティの3年生クラスは、オランダのライデン国際学校 (ISL) の3年生と「異なる場所、似たような暮らし」をテーマに学んでいます。この学びでは、世界中の人々の生活の違いや共通点に焦点を当てています。オンラインでビデオ会議を行い、互いに質問し合ったり、同世代のオランダの子どもたちと情報交換をしました。今後もこのような国際交流の機会を広げていきたいと考えています。



インフィニティとライデン国際学校のオンラインビデオ会議の様子



堺校
卒園生
T.S.くん
東京大学
教養学部
1年生

My Stepping Stone <File8>

スタート地点はキンダーキッズ。卒園後、自らの力で

切り開いたフィールドで、奮闘している卒園生をご紹介します。

**高校卒業までGradに通って維持した
英語力を認められ学校要請の海外留学へ
東京大学で多角的な視点を身につけ
将来は世界を舞台に活躍したい**

キンダーキッズとGrad Clubでの学び

キ ンダーキッズでは、幼少期からネイティブレベルの英語に触れ、自己表現力やコミュニケーションスキルが育まれました。その後もGrad Clubに通い続けることで英語力が維持でき、異文化の価値観を理解する力も養いました。また、文法や読解力よりも先に「実践で使える生の英語」を身につけたことで、リスニングや会話に苦手意識がなく、自然に世界で活躍したいという夢を持つようになりました。

受験勉強への取り組み

自分に合った温度環境の場所を選び、毎日決まった時間に勉強を続けました。進まない時期もありましたが、不安になっている時間が勿体無いと思い、勉強法を変えずに目の前のタスクに集中することで乗り越えました。

東京大学での挑戦と将来の目標

東京大学を志望した理由は、最高学府で多角的な学問に取り組みたいという強い思いがあったからです。また、高校の先輩が東大に進学していたことも大きな影響を受けました。将来は大学で学んだ多様な視点を活かし、国際的な舞台で社会に貢献することを目指しています。

Choate Rosemary Hall サマープログラム

高 校3年生の時、学校の要請により、費用を学校負担でアメリカの Choate Rosemary Hall のサマープログラムに参加しました。5週間のプログラムは、世界中から学生が参加しており、毎日が発見と驚きの連続でした。多様な文化背景を持つ学生たちと交流することで、インテラクティブな授業や自由な議論の中で新しい視点を得ることができ、大きな成長のきっかけとなりました。

Grad Clubでのアルバイト

教養学部で幅広い学問に取り組みながら、キンダーキッズやGrad Clubでの学びを次世代に伝えたいという思いから、Grad Clubでアルバイトを始めました。自身の経験を生かして、子どもたちに英語や異文化理解の楽しさを伝えることにやりがいを感じています。アルバイトを通じて、教育の現場での責任感や新たな視点を得ることができました。

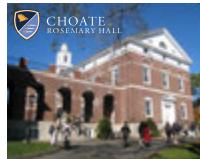


【T.Sくんプロフィール】

- ・2012年 キンダーキッズ堺卒園
- ・小1～高校3年生までGrad Clubを継続
- ・清風南海学園中・高等部卒業
- ・高校時代にChoate Rosemary Hallサマープログラムに参加
- ・2024年 東京大学教養学部に入学

【Choate Rosemary Hall サマープログラムとは?】

Choate Rosemary Hallは、アメリカ・コネチカット州にある名門ボーディングスクールで、第35代アメリカ合衆国大統領ジョン・F・ケネディやノーベル経済学賞受賞者ダグラス・ノースなど多くの著名人を輩出。1916年から世界中の生徒に学びの機会を提供しているサマープログラムでは、学術強化プログラム、英語研修、演劇芸術インスティテュートなど、多彩なコースがあり、2週間から5週間にわたって多様な学問や文化に触れることができる。リーダーシップや社会問題に取り組む機会があり、世界中から集まる生徒たちと切磋琢磨する貴重な体験が得られる。



「キンダーキッズからGrad Clubまで続いた英語教育と、家族の温かな支えが、Tくんの成長を大きく支えてきました。お父様に、家庭での教育方針と息子さんの歩みを伺いました

【キンダーキッズを選んだ理由と現在の活躍への影響】

キンダーキッズのバイリンガル教育が決め手でした。幼少期からネイティブレベルの英語に触ることで、将来の可能性が広がると思いました。自己表現を大切にする教育方針が、息子に積極的な姿勢を身につけさせ、部活動でも主将に選ばれるなどリーダーシップを発揮しています。

【Grad Club の継続による成長】

2歳半から18歳までネイティブの環境に長く身を置いたことで、強いスラングで話しかかれたり、知らない英単語を前にも全く物怖じすることはありませんでした。こうした英語力と自信が評価され、高校3年生の時には学校の要請で費用学校負担の海外留学の対象に選ばれました。留学を通じてさらに成長する貴重な経験を得ました。

【進路選択と受験期のサポート】

進路については、私は医療関係者として医療の道を勧めることもありましたが、最終的な判断は本人に任せました。本人の本音で決められるよう、雑談の延長で進路の話をすると、プレッシャーをかけず、見守る姿勢を意識しました。本人が行きたいと言った夏期講習や模試だけに参加させるなど、無理に負担をかけないように工夫しました。

【家庭での教育方針】

自主性を重視し、自分で考えて決定することを大切にしてきました。中学生以降、本人が自らメリットとデメリットを考慮し、判断できる力を育むよう心がけてきました。

【キンダーキッズで得た学び】

キンダーキッズの環境は、子どもの個性を尊重し、長期的な成長を支えてくれる場所でした。特に、英語という教科で最初から絶対的な自信を持ったことが、他の教科にも好影響を与えたと感じています。成績が可視化され、順位が重要視される環境で、自信のある教科を持つことは大きな強みでした。日常の遊びやオーストラリアでのホームステイを通じて、英語だけでなく、自己判断力や協調性といったスキルも自然に身につけることができました。

INTERVIEW with GRADUATES

最年少ソリストとして「若い音楽家のコンサート」に出演したD君と、英語力を磨き続けるお兄さんのH君。キンダーキッズを卒園し、それぞれのフィールドで活躍する二人、そしてその成長を支えたお母さんへのインタビューをお届けします。



D.S.君

2022年

奈良登美ヶ丘校卒園

バイオリンを始めたきっかけ



K3で同じクラスだった友達がバイオリンを習い始め、楽しそうに話をしていたのを聞いて、興味を持ちました。友達のレッスンを見学し、体験してみるととても楽しかったのですぐに始めました。

全国大会で3位、そして最年少ソリストに

バイオリンの全国大会では1位を目指していましたが悔しさもありましたが、3位に入れて嬉しかったです。

先日のコンサートでは、**最年少ソリストとして演奏しました**。特に弦楽アンサンブルで先生方と一緒に演奏する時間が楽しく、さまざまな音が重なり合うことで、一人で弾く楽しさとはまた違う、みんなで演奏する魅力を感じました。普段コンクールではあまり緊張しませんが、今回は多くのお客様がいらっしゃったので少し緊張しました。練習が大



「若い音楽家のコンサート」会場に中山代表をはじめGradスタッフが応援に駆けつけました

変な時もありますが、これからもたくさんのコンサートに参加したいと思います。

キンダーキッズでの経験



キンダーキッズの「Show & Tell」で自分の意見を人前で伝えたり、クリスマスコンサートでパフォーマンスをした経験は、バイオリンのコンクールや学校生活でとても役立っていると感じています。

特に「Show & Tell」のおかげで、人前で話すことに慣れ、コンクール等で演奏する時もあまり緊張しなくなりました。クリスマスコンサートも練習は大変でしたがとても楽しく、舞台で発表することが好きになりました。

将来の夢

将来は宇宙飛行士になりたいと思っています。宇宙でもバイオリンを弾けるのか、実際に確かめてみたいです。



H君はお兄ちゃんが大好き！
とても仲の良い二人！



※[若い音楽家のコンサート]

7 門真市音楽協会が主催するクラシック音楽のコンサートで、若手の才能ある音楽家たちに演奏の機会を提供。チェロやピアノ、ヴァイオリン、声楽など、多彩な楽器やジャンルでの演奏が行われる。

英語ができるとメリットだらけ！

英語面接を見事に突破して奈良県立国際中学校に進学！

英検二級も取得したH君に、英語力を伸ばす秘訣を教えてもらいました。

小学生の頃から定期的に英検を受けていました。3級と準2級は順調に合格しましたが、2級は苦戦しました。語彙力と文章力が足りないと感じたため、単語帳で語彙を増やし、弟と英語で話をしたり、英語のYouTubeやアニメ、ドラマ、映画をたくさん見て、ネイティブスピーカーのスピードや発音に慣れるよう努めた結果、無事2級に合格できました。

また、昨年の夏、オーストラリア研修に参加し、英語力が大きく向上しました。ホストファミ

リーや学校で英語を使ってコミュニケーションを取る機会が多くなったからだと思います。決まった会話ではなく、その場に応じたやり取りを注意深く聞き、わか



らない言葉は聞き返したり、言い換えることで自然に上達できました。

英語ができると、外国人の人と話をしたり英語のドラマやアニメなども見られたり、メリットしかないと思います。英語が話せるだけで世界は広がります。現在は、学校の友達とも英語で会話し、メッセージのやり取りも英語で行っています。

将来は、様々な国を訪れてその文化や歴史を学び、英語以外の言語にも挑戦してみたいと思っています。



Mother's voice お母さんに聞きました！子育てTips

心がけていること

結果を求めず、過程に注目し、自分で選んで決めるよう促しています。同じ失敗を繰り返すことでも子どもは成長します。

また、体調不良以外は、どれだけ疲れても練習や勉強を5分だけでもするよう声をかけています。休むことや諦めることは簡単ですが、「続ける」ことは本当に大変です。一緒にその時間を過ごし、できた部分を伝え成長を共に感じられるようにしています。振り返った時に「頑張った」と実感できる経験は、自信や支えになると思います。

キンダーキッズで得たこと

キンダーキッズでは、個性を尊重した保育が行われ、子どもたちは大切にされる経験を得ました。同年齢や異年齢の関わり、さまざ

まな価値観を持つ先生方から教わることで、個性や尊重、挑戦する気持ちが自然に身についたと思います。少し難しいことにも諦めずチャレンジし、結果にこだわりすぎず次を考える姿勢は、「it's OK to make mistakes」と教わったおかげです。

メッセージ

在園時は卒園後に英語が理解できなくなるのではと心配していましたが、読み書きをしっかり学び、自分で絵本や小説を読んだり字幕を理解できるまで英語を習得していたので、その心配は不要でした。

英語を「学習科目」ではなく「コミュニケーションツール」として楽しめたことが良かったと思います。外国の方にも自信を持って話しかける姿を見て、キンダーでの経験に感謝しています。

Thank you!





絵本が育む言語の力と
未来への学び

えほん研修

◆絵本を通じて育む母語の力と子どもの成長

キンダーキッズでは、言葉の力を育てるための「えほん研修」を実施しました。今回の研修では、幼児教育の専門家である竹内美紀准教授を講師に迎え、母語の確立が第二言語習得の基盤であることに焦点を当てた講義が行われ、日本語絵本の読み聞かせを通じて子どもたちの思考力や表現力を育む方法について学びました。



◆えほん研修の背景と目的

幼少期における母語の確立は、思考力や理解力を養う上で非常に重要であり、さらに第二言語習得にも大きな影響を与えます。1歳6ヶ月から3歳までの時期に母語をしっかりと身につけ豊かな語彙力を培うことは、その後の学習やコミュニケーションにおいても不可欠です。こうした背景から、キンダーキッズでは第二言語の習得に不可欠な母語を確立するため、プリクラスでも日本語の絵本読み聞かせをスタートさせ、母語と第二言語のバランスを取る教育を実践しています。



◆研修の内容と学び

今回の研修では、竹内先生から、日本語のオノマトペ（擬音語や擬態語）が子どもの言語発達に与える影響について学びました。オノマトペは、言葉が未発達な子どもたちにも覚えやすく、発声しやすいという特長があり、例えば「ワンワン」や「キラキラ」といった表現を通じて、子どもたちはより多くの言葉に触れ、言葉の表現の楽しさを知ることができます。さらに、言葉を通じて心の成長にもつながるとされています。また、絵本の読み聞かせを通して、保育者は子どもとのやりとりを深め、子どもの思考や感情を理解することができるようになります。竹内先生は、語彙力や読解力の重要性を強調し、母語がしっかりと定着していないと第二言語の習得が難しくなると説明しました。母語の語彙量が豊富な子どもは、多言語を学ぶ際にもその語彙力が活かされる傾向があります。キンダークラスでも、年齢に合った日本語の絵本を読み聞かせることで、英語と同様に母語の理解も深めることにつながると考えます。

講師プロフィール



竹内 美紀 (たけうち みき)

フェリス女学院大学大学院人文科学研究科博士前期課程および博士後期課程を修了。現在、東洋大学文学部国際文化コミュニケーション学科准教授。専門は比較文学、絵本論、翻訳研究で、母語と第二言語の習得が子どもの思考力や創造力に及ぼす影響を研究し、多言語教育における実践的なアプローチを提案。著書に『石井桃子 子どもたちに本を読む喜びを』(2018年)など。

◆家庭での実践のヒント

家庭での絵本の読み聞かせは、子どもとのコミュニケーションを深める重要な機会です。YouTubeなどのコンテンツも豊富にありますが、一方的に動画を見るだけでは、考える力や言葉の習得が十分に伸びず、自分発信の力が育ちにくい場合があります。親子で絵本を読む時間を大切にし、短時間でも親子のやりとりを楽しみましょう。特に、絵本を読んだ後、どのように感じたかを親子で話し合うことも重要です。感想を共有することで、子どもの考える力や表現力を育み、言葉を通じた親子の絆も深まります。忙しい日々の中で、短い時間でも絵本を通じたスキンシップを大切にしてほしいです。



◆研修の成果と今後の展望

今回の研修では、まず「なぜ教育をするのか」「保育者としてどのような子どもを育てたいか」という根本的な問から始まりました。参加者全員が意見を出し合ながら、竹内美紀准教授とともに議論を進め、絵本をどのように保育に活用するか、そしてそのためにどのような準備をするべきかを考えました。議論の結果、重要なこととして浮かび上がったのは、子どもたちが自分の人生を主体的に生き、自分で考え、幸福な人生を送る力を身につけることです。そのためには、自己内対話（自分自身との対話）が欠かせないことが確認されました。自己内対話ができるためには、豊かな語彙力と深い言葉の理解が必要です。今回の研修を通じて、思考力を育むためには、まず母語をしっかりと理解し、語彙力を増やすことが重要であるということを改めて学びました。今後、キンダーキッズでは、英語のカリキュラムを削減せず、隙間時間を利用して日本語絵本を取り入れることで、子どもたちの思考力を高められるような環境づくりを進めていきます。また、この取り組みを通じて、保護者にも母語の重要性を伝えていきます。



今回の絵本研修では、母語の力を活かした保育の可能性を改めて考える機会となりました。

日本語絵本の効果的な活用が、子どもたちの言葉の発達や思考力の育成にどのように貢献するかを学び、

今後の保育活動に大きな示唆を与える研修となりました。

Grad Club オーストラリア研修

今年もグラッドクラブの生徒たちは、オーストラリアでの研修に参加し、異文化の中で多くの成長を遂げました。昨年から再開されたこのプログラムは、生徒たちにとって新たな挑戦となり、異文化交流や語学の学びを深める貴重な機会となっています。小学生から中学生・高校生までの生徒たちは、現地のホストファミリーとの生活を楽しみ、さまざまな活動を通じて自信を深めて帰国しました。今回中学生は、これまでのオーストラリア研修で訪れていた学校とは異なる学校に通いました。現地の同年代の生徒たちと一緒に授



業を受ける中で、グラッドクラブの生徒たちは英語で積極的にコミュニケーションを取り、その中で文化を共有する機会を得ました。今回訪れた学校では、日本語が必修科目となっているため、現地の生徒たちは日本文化に関心が高く、互いに多くの質問や意見交換が行われました。



研修中のアクティビティも充実しており、生徒たちはオーストラリアの自然や文化に触れる貴重な体験をしました。小学生のグループは、予定していたサーフィンが波の影響でボディボードに変更となりましたが、海での活動を十分に楽しめました。一方で、中学生・高校生は現地のインストラクターからサーフィンを学び、体験し、あっという間に習得していました。



また、動物との触れ合いも、生徒たちにとって楽しみの一つでした。Australia Zooではカンガルーに餌をあげたり、クロコダイルショーを観賞したりと、オーストラリアの自然と動物に触れる貴重な体験を通して、リフレッシュする時間を過ごしました。コアラを抱いての写真撮影は廃止されていましたが、コアラに触れらる機会があり、特別な思い出となりました。

研修後の感想



ホストファミリーに親切に接してもらい、ミニハイキングや滝ツボでの水泳など、楽しさ満載の体験ができました。授業も日本のレッスンに近く、抵抗なく参加できました。バディとも仲良く過ごせたのでまた参加したいです。
(E.F.さん／G4)

ホストファミリーとのショッピングやサッカー観戦が楽しかったです。学校ではESLも充実していました。バディから色々教えてもらい、サポートも心強かったです。おかげで海外でも生活できる自信がつきました。次回は妹も参加を考えています。(S.A.くん／JHS1)

異文化交流で 生まれる発見と成長!



小学生の生徒たちは、現地校でのバディプログラム（現地の生徒とペアを組んで交流する活動）を通じて、オーストラリアのリアルな学校生活を体験しました。バディと共に授業に参加し、英語でのコミュニケーションを積極的に取る姿が見られました。また ESL (English as a Second Language) の授業で学びながら、ホストファミリーに宛てた感謝の手紙を英語で丁寧に書き、自分の気持ちをしっかりと伝える場面も印象的でした。

中学生・高校生の生徒たちは、現地校の授業で数学や歴史などの学問を学びながら、オーストラリアならではのアクティビティにも参加しました。ブーメラン作りやアボリジニ文化に触れる体験を通じて、異なる文化への理解を深めました。また、オーストラリア発祥のスポーツであるネットボールにも挑戦し、バディと共に体を動かしながら友情を育みました。

研修の最終日にはフェアウェルパーティーが開かれ、バディやホストファミリーと別れを惜しむ場面が多く見られました。生徒たちは、この短期間で築いた友情や絆を大切にし、再び会える日を楽しみにしている様子でした。帰国後も生徒たちの表情には、オーストラリアでの貴重な経験で得た成長と自信が溢れており、保護者の方々から多くの感謝の言葉をいただきました。

オーストラリア研修は、異文化交流を通じて生徒たちが自己成長を遂げるための貴重な機会です。今後もこのプログラムが、多くの生徒たちにとって人生の大きな一歩となることを期待しています。



グラッドクラブ
マシュー・ホーン

今回の研修は、生徒たちが言語だけでなく、人間的にも成長する機会となりました。特に、異文化に触れることで、英語でのコミュニケーション能力が向上し、英語学習へのモチベーションが大きく高まった生徒が多く見られました。このプログラムを通じて、生徒たちは世界中の人々と英語で交流する楽しさやメリットを実感し、将来の可能性を広げています。実際に、海外の高校への進学を希望する生徒も出てきており、今後の目標が明確になったことも印象的です。また、ホストファミリーとの時間や現地のバディとの交流を通じて、日々の生活や文化を学びながら、生徒たちは自信を深め、自ら考え行動する力を身につけました。この経験は必ず生徒たちの今後の成長に繋がると確信しています。



2025年度オーストラリア研修説明会を開催！

詳しくは **Grad +** にてご確認ください …



ついに復活！／

キンダーキッズの

Family Event

この秋、5年ぶりに家族で楽しめるキンダーキッズの
ファミリーイベントが全国で開催されました！
その様子をお届けします。



阿波座校

阿波座 フェスティバル

「阿波座フェスティバル」に900名以上の
ファミリーが来場！先生のウクレレラ
イブやMoon Rockersショー、Excited
Foxの登場で大盛りあがり。阿波座校
の近隣施設と「AWAZA COLOR FES
2024」として共催され、親子で楽しめ
るアミューズメント、フード、スポーツ、
カルチャーが満載の素敵なお1日となり
ました！



An Angry Apple's
Amazing Archeryに
トライ！

NICE！



大人気だった
キンダーキッズオリジナル
フォトブース♪



名古屋 & 名古屋ノリタケ校

ハロウィンパーティ

大盛況だった名古屋校・名古屋ノリタケ校合
同で開催されたハロウィンファミリーイベント。
両校の生徒とご家族が仮装で参加し、「ウォー
リーを探せ」ゲーム、キンダーキッズの人気キャラ
クター「エキサイトフォックス」との写真撮影、
仮装コンテスト、Wayne園長特製BBQハン
バーガーなど、大いに楽しみました！



仮装コンテスト入賞者発表！



Best of Nagoya Area賞 : AM
【ノリタケ校】PK N.K.ちゃん



Best of Nagoya Area賞 : PM
【名古屋校】K3 S.T.ちゃん



Wayne・Kimiko賞 : AM
【名古屋校】K3 K.H.くん / K1 H.H.くん



Wayne・Kimiko賞 : PM
【名古屋校】K3 R.B.ちゃん、M.I.ちゃん、
M.M.ちゃん / K1 O.M.くん



全スタッフが
ウォーリーに！

これからも家族で楽しめるイベントをどんどん開催していきます！

初
開催

親子が自然と触れ合う

屋外交流イベント

キンダーキッズインターナショナルアドベンチャースクール東京本校で11月1日、K1とK2クラスの親子が参加した初の親子屋外交流イベントが開催されました。スクールとしちゃんの保護者が企画から協力し、子どもを中心とした交流の場が実現しました。

イベントの冒頭、自然学習アドバイザーの長谷川 純里香さんが安全講習を行い、その後、子どもたちが仕込んだ味噌がどのように作られたかを説明。さらに、フォトフレームの作り方をリードし、自然の素材を使った創造的な工作が進められました。園庭では落ち葉や木の実を集め、子どもたちはセミの抜け殻などユニークな素材を加えながら個性豊かな作品を完成させました。

お味噌汁の試食では、保護者ボランティアの方々が子どもたちに優しく声をかけながらお椀を配り、家族同士や先生方と和やかな交流の場が広がりました。豊かな自然に囲まれた環境で、スクールと保護者が協力しあって子どもたちの成長を見守る姿が印象的な一日でした。

今回のイベントを通じて、親子で自然と触れ合いながら学ぶ機会が実現しました。昨年スタートした「アドベンチャープログラム」は、子どもたちの心身

の健康（ウェルビーイング）と、他者と協力する力、折れない心（レジリエンス）を育むことを目的としています。一方で、けがや天候による健康面の心配から参加を迷う親御さんも少なくないと理解しておりますので安全管理を徹底し、本プログラムの意義へのご理解とご協力をお願いしたいと考えています。

今後はアドベンチャースクールだけでなく、全校で教室を飛び出した保護者参加型の自然体験活動を増やし、子どもたちが自然から学び、親子の絆が深まる機会をさらに提供していきたいと思います。

自分たちで仕込んだ
味噌の仕上がりに
興味津々！



みんなで“味わう
手作り味噌のお味噌汁”





L.S.ちゃんのお父様

親子で共有する学びと発見のひととき

今回のファミリーイベントでは、子どもたちと共に新たな発見がありました。普段のOpen Dayとは異なり、保護者が一緒に授業を受けるような感覚で参加できたため、子どもの別の一面を見ることができました。イベント終盤のOutside playでは、子どもたちが自然の中でのびのびと楽しむ姿が印象的で、スクール内に広い園庭があることの素晴らしさを改めて実感しました。また、アウトドア教育アドバイザーの長谷川 絵里香さんのサポートもあり、アクティビティのアイディアだけでなく、進行の際の注意点や保護者と先生方の関わり方についても多くの助言をいただき、安心してイベントを進めることができました。味噌汁作りやフォトフレーム作りでは、子どもたちが自分の個性や創造性を発揮する様子を間近で見ることができました。フォトフレーム作りでは、スタンプと飾り付けという選択肢が与えられ、子どもたちは自由にアイデアを形にし、やる気や興味がさらに引き出されていたように感じます。親子で一緒に参加することで、家庭でもスクールでの出来事について話が深まり、会話が弾むようになりました。このような体験を通して、親子で一緒に成長し学べる機会に感謝しています。



東京本校 施設長
渡辺 亜由美

今後もより充実した保護者交流の場を提供

今回のファミリーイベントは、保護者同士やスタッフとの交流の機会を作り、子ども達の屋外活動と一緒に体験することで、アドベンチャースクールの理念や屋外活動への理解を深めることを目的に実施されました。保護者の方からは「子どもが普段裏庭でどのように遊んでいるかがわかり嬉しかった」「普段話す機会のない保護者や先生とも交流できた」という声が寄せられ、スタッフからも「自分の遊び場を誇らしげに紹介する子どもたちの姿が印象的だった」との感想がありました。今後は、アクティビティ内容や開催日時、頻度を精査し、年間を通じて親子参加型の自然体験をスケジュールに組み込み、より参加しやすいシステム作りを目指していきます。

屋外での
クラフト作りに
みんな夢中！



自然素材で
飾られた
個性あふれる
フォトフレーム





Kobe Seaside Club

G1-G4 KIDS

WINTER DAY CAMP



開催のお知らせ

神戸シーサイドクラブで、
楽しい冬のデイキャンプに参加しませんか？

アウトドア料理、クラフト、ゲーム、そして特別な冬の発表を楽しみましょう。

季節を楽しみながら学べる特別な体験をお見逃しなく！

日 時 12月15日(日) 10:30～17:30 ※予定

場 所 神戸シーサイドクラブ
キンダーキッズ 神戸シーサイド(須磨)校併設
〒654-0055 神戸市須磨区須磨浦通2丁目1-31



MAP

対 象 G1～G4(小学1～4年生)
キンダーキッズ卒園生、Grad Club在籍生、
インフィニティ国際学院初等部在校生

詳しくは
Grad+にて →



Grad+

本イベントに関する問い合わせは、
下記「神戸シーサイドクラブ」メールアドレスまで
ご連絡ください。

✉ kobessc@kinderkids.ed.jp

※担当がグラッドクラブではございませんのでご注意ください。

10年
ぶりに
復活!!

韓国で気軽に海外体験をしてみませんか?

韓国英語村研修

2025年3月25日(火)～3月28日(金) / 3泊4日

海外留学を目指して小さな第一歩!

海外での新しい体験に挑戦したいけれど、
遠くへの渡航には不安を感じる方にオススメ!



アジア最大級のEnglish ヴィレッジ 「パジュ英語村」

30を超える英語村が存在する韓国で、
唯一政府が運営する「パジュ英語村」。
世界中から留学生が集まるこの英語村に、
Grad Clubも訪問することになりました!
Experience・Entertainment・Educationの
3Eをコンセプトに掲げ、生きた体験や
楽しいアクティビティを通じて、自然に英語を
身につけることができる環境が整っています!



説明会開催



パジュ英語村で過ごす3泊4日。近場の韓国「パジュ英語村」から、
世界へ羽ばたく一步を踏み出してみませんか?

参加対象 現G3～JHS3 **募集人数** 20名 (最少催行人員: 20名)

注意事項 説明会にご参加いただけるのは現G3～JHS3の方です。
他の学年の方はご参加いただけませんのでご了承下さい。

**説明会
日程**

【ぶらら天満(対面)】12月5日(木) 10:30～
【オンライン】12月5日(木) 18:00～

説明会に参加希望の方は
必ずご予約ください。

下記申し込みフォーム及び
Grad+から説明会の予約を
していただけます。



申し込みフォーム

Grad+

表紙：クラフト“秋の森とミノムシの冒険”

紅葉が広がる森の中で、子どもたちがミノムシたちと一緒に秋の冒険を楽しんでいます。

木々にぶら下がるミノムシたちは、まるで森の仲間のように、子どもたちの冒険を見守っているかのようです。

みんなが描いたこの秋の世界には、自然の中での新しい発見と喜びがあふれています。

ミノムシとともに楽しむ冒険のひとときが、秋の訪れを感じさせてくれますね。

アイデアを お待ちしています!

「Hiraku」では、英語・幼児教育の最新ニュースやトピックなど皆さまに役立つ情報をお届けいたします。

- ・最近気になっていること
- ・取り上げてほしい話題
- ・新しいコンテンツ etc...

皆さまからのご意見・ご要望を
お待ちしています!

「Hiraku」編集部
TEL : 06-6135-0150
Mail : hiraku@kinderkids.ed.jp

Hiraku

2024年11月発行 Vol.36

次回 1月末
発行予定

株式会社キンダーキッズ

TEL : 06-6135-0150

〒530-0033 大阪市北区池田町 3-1

ぶらら天満ビル 2F

www.kinderkids.com